弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため，患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので，お知らせいたします。

研究課題名：　体外式膜型人工肺施行患者へ外科的に左室からベントカテーテルを挿入した減圧法と補助循環用ポンプカテーテルを用いた減圧法の比較

研究の目的

体外式膜型人工肺（ECMO：Extracorporeal Membrane Oxygenation）は救命センターなどで施行される機械的な心肺蘇生法の一つであり，致命的な状態から素早く脱するために緊急で使用します．心臓に代わって全身に血液を循環させるために，足の付け根の太い血管にカテーテルを留置して心臓を補助します．ECMO から全身に送られる多くの血液は脳や腎臓など，主要な臓器を保護する目的として大事な役割を果たしますが，心臓自体には負荷になります．この心臓にかかった負荷を取る方法しては，これまでは胸部に外科的に切開して心臓にカテーテルを挿入して減圧して負荷を取る方法と，現在は新しく発売された補助循環用ポンプカテーテルを足の付け根から挿入して，内科的に減圧して負荷を取る方法があります．この二つの治療法の有用性について評価します．

研究実施期間：　令和５年７月１３日　～　令和６年３月３１日
（倫理委員会承認日）

対象となる方：　2014 年 6 月から 2023 年 4 月までに当院で V-A ECMO を施行した患者のうち，左室後負荷減圧目的として外科的に肋間小切開からベントカテーテルを左室に挿入した患者もしくは，補助循環用ポンプカテーテルを併用して減圧した患者 10 名程度

利用させていただきたい試料・情報について
（他機関に提供する場合，提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち，心臓超音波検査や合併症発生率，ICU 滞在日数，人工呼吸器使用日数，死亡率などを標記研究課題実施のために利用します．

具体的には，近年発売された補助循環用ポンプカテーテルと従来まで施行した外科的にベントカテーテルを直接心臓に挿入する減圧法の有効性を評価します．

なお，利用に当たっては氏名，住所，電話番号，患者番号等個人を特定できる情報を削除し，本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）行います．

研究成果については，学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが，その内容から対象者個人が特定される事はありません．研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが，希望される方は下記連絡先までご連絡ください．

本研究課題について，より詳細な内容をお知りになりたい場合や，試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は，以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合，当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし，連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は，該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので，ご了承願います。

本件連絡先	弘前大学医学部附属病院　医療技術部　臨床工学部門　後藤　武